パラアーチェリー

一般社団法人日本身体障害者アーチェリー連盟

パラリンピックの「始まり」の競技

パラリンピックの起源とされる1948年開催の「ストーク・マンデビル大会」は、戦争により障がいを負った車いす使用者（脊髄損傷者）による初のスポーツ大会です。
行われた種目は、アーチェリーでした。

日本でのパラリンピック初開催であった1964年の東京パラリンピックでは、公式ポスターにアーチェリーが採用されています。
日本は団体で2つの銀メダルを獲得。

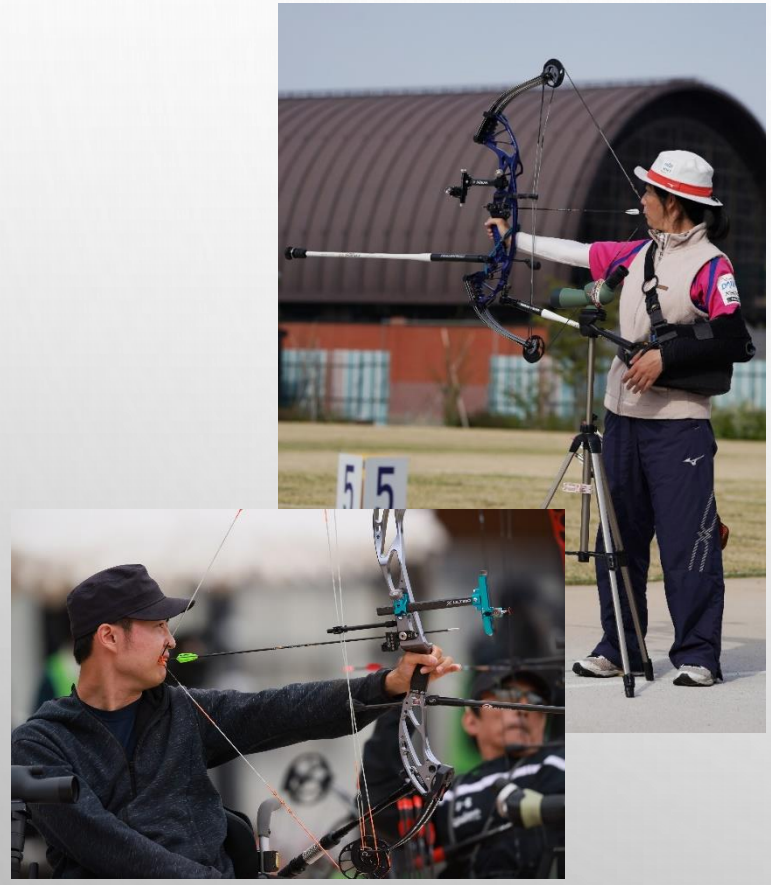
「ユニバーサルなスポーツ」

アーチェリーは「健常者」と「障がい者」が
同じルールのもと、同じ射線から、同等に競うことが
できる競技です。

健常者の国内最高峰の試合・全日本ターゲットアーチェリー選手権大会に出場を果たしているパラアーチャーが毎年何人もいます。

日本では健常者のナショナルチーム最終選考にまで勝ち残った選手、世界にはオリンピックに出場した選手も。

各選手の障がいに合わせた創意工夫



マウスタブ

各選手の障がいに合わせた創意工夫

南浩一さん
バルセロナ金・アトランタ銅・アテネ銀（団体）

指は動かないけれど手首は動かせる→手首を動かして矢を放つリリーサーを開発

参考 「【パイオニアに聞く】用具の工夫で世界を制した！ アーチェリー・南浩一の挑戦心」
https://www.parasapo.tokyo/topics/34445

各選手の障がいに合わせた創意工夫

両手がなくても「足で弓を引く」

向かって左
マット・スタッツマン選手（アメリカ）
向かって右
ヴァン・モンタギュー選手（ベルギー）

参考　世界アーチェリー連盟「6 assistive devices on the Paralympic archery field」
https://www.worldarchery.sport/news/144239/6-assistive-devices-paralympic-archery-field

弓の種類

リカーブ
オリンピックでも使用されている弓

コンパウンド
滑車がついている弓
相対的に弱い力でも射つことができる。

クラス分け

W1：少なくとも三肢（手や脚）かつ
体幹に障がいがあり、
車いすを使う選手。

――――――――――――――――――――――

W2：下半身の障がいにより、
車いすを使う選手。

ST：立位またはスツール（台）に座って
競技する選手

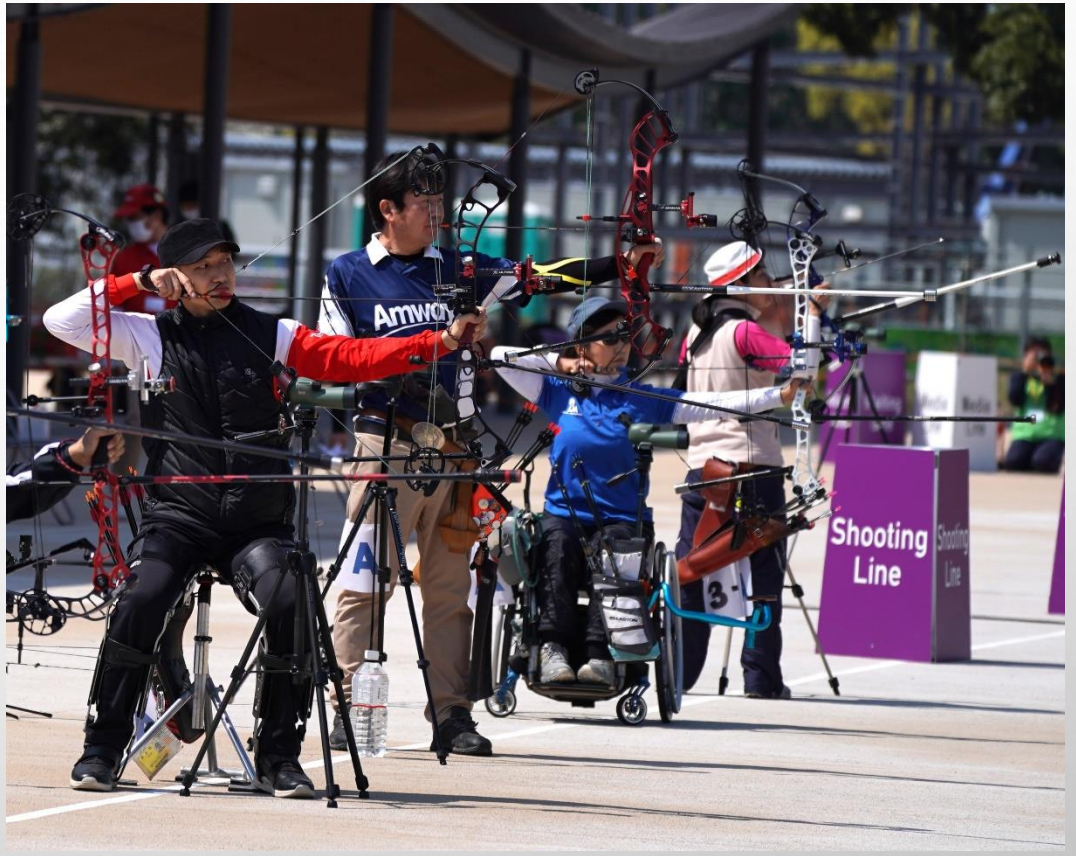
ST　　W2

種目

W1オープン:W1を対象
弓はリカーブかコンパウンドを選べる。
的は直径80CM
的までの距離は50M

コンパウンドオープン:W2とST対象
弓はコンパウンド
的は直径48CM
的までの距離は50M

リカーブオープン:W2とSTを対象
弓はリカーブ
的は直径122CM
的までの距離は70M



STとW2　全員「コンパウンドオープン」

聴覚障害

・全国障害者スポーツ大会種目

・2023年鹿児島大会では7名の選手が出場

・現段階では当連盟主催試合には開催種目がない

・パラリンピック・デフリンピックともに開催種目にない

VI （Visually Impaired）

・視覚障害

・現段階では全国障害者スポーツ大会種目にはない

・現段階ではパラリンピック種目・当連盟主催試合種目にない

・2009年～世界選手権あり（写真）

・30M 80センチ的 72本

・手の甲に触知式サイト（ニードル）等

・競技中、後ろに立つアシスタントに許されるのは矢の当たった位置を教える・安全上のサポート・スコア記入のみ（射ち方のアドバイスはできない）

・クラス分け ＶＩとＶⅡ／Ⅷ

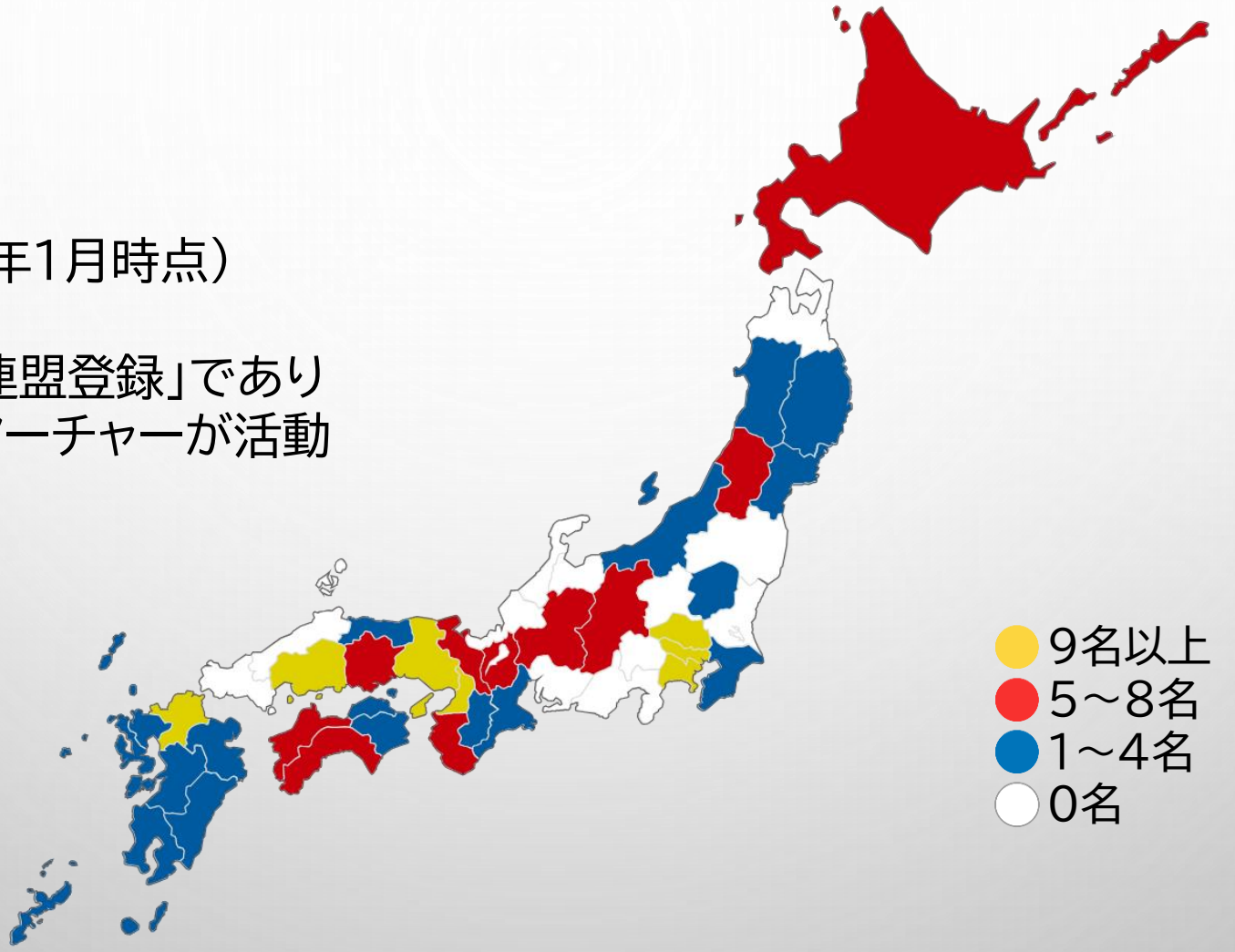
・日本にはクラシファイヤーがいない

参考 世界アーチェリー連盟 https://youtu.be/TcvM3zdBhaI?si=AyX-lfRsPaDw51cN&t=30

日本のパラアーチェリー

連盟登録会員数
173名（2024年1月時点）

ただしあくまで「連盟登録」であり
日本各地でパラアーチャーが活動



「パラアーチェリーをやってみたい」

・障害者スポーツセンター
・地域の健常者の協会／パラの協会
・レジャーランド的な場所

パラアーチェリーを始める・続ける時の「ハードル」

・どこに問い合わせれば良いのかわからない
・射場やアーチェリーをやっているところが無い・わからない
・射場があってもパラを教えられる人がいない
・始めるにあたりお金はどのくらいかかるのか不安
・パラならではのツールの作成の仕方がわからない
・障害者スポーツセンターと地域の協会との繋がりがない
・クラス分けがわからない
・その他

※現在、さらに調査中

「新しい」動き

知的障害・発達障害のあるお子さんが
アイマスクをしてブラインドアーチェリーを
楽しんでいる
（協力：広島県　佐伯国際アーチェリーランド）

世界アーチェリー連盟による特集　自閉症の選手がベガスシュートに出場
https://www.youtube.com/watch?v=ua9OplQ6QyI